

中日
日中友好新聞

No. _____

発行所
日本中国友好協会
〒111-0933
東京都千代田区浅草橋2-1-3
浅草橋7-5-5 5F
電話 03(5829)2149(TEL)
FAX 03(5829)2141
http://www.jcfk.org.jp
E-mail: chunika@jcfk.org.jp
社印 00119-1-21176

日中友好協会
岡山支部
〒705-0034
岡山市北区下伊福
西町1-58 民生会館1F
TEL: FAX 0861 258-1806

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8031
倉敷市福河町東22461-45
TEL: FAX 0861 411-7800

中国帰国者との交流会(その1)

「コロナ感染防止のため規模を縮小して開催」

3月7日(日)、福祉交流プラザさいいでんで 中国帰国者との交流会」が開催され、27人が参加しました。今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、規模を例年の半分以下に縮小して開きました。

この会は、2007年4月11日に中国帰国者の日本語教室」がプラザさいいでんで開催されたのが契機となりました。最初は、同年の9月29日(土)に「お月見と音楽の夕べ」と題して行い、2008年から「中国帰国者との交流会」と呼ぶようになりました。

昨年はコロナ禍で中止しました。

今年で13回目です。2017年度から9月の開催が、諸行事の関係で3月に変更となりました。

日中友好の一助に!

当初は、日中岡山支部が中国帰国者支援の目的で行っていましたが、最近では、プラザさいいでんが主催して開くようになりました。会の目的は「中国帰国者と地域の人々が、食と音楽を通して交流を重ねる中で、相互理解が広がり、日中友好の一助になる。」ことです。

今年も「日本と中国の伝統文化

の競演」をテーマに開きました。当日の内容は、2ページの資料(1)通りです。

日中岡山支部からは、4人の理事(小林・曾田・青木・小川)が参加しました。私は、中国から送られてきたマスクをして次のように挨拶をしました。

中国が感染拡大のとき

は、日本からマスクを送り、日本が拡大したときは、中国からマスクが届いた」と民間レベルで相互に助け合ったことを話した。

青木さん、小川さんの太極拳の表演は、素晴らしいと大きな拍手に包まれました。次に小川さんの感想文を紹介します。

日中岡山支部 小林軍治

中国帰国者との交流会に行ってきた。

コロナのせいで随分規模縮小されていたけれど、去年なかったものが、今年はあるので、素晴らしいことだ。

せっかく少人数だったので、中国語で話しかけてみた。私の中国語が通じたかどうかは……あやしい。交流会がたった一時間しかなかったから、話すチャンスもそうはなかった。もっと交流したかったな、と思う。

太極拳は扇と陳式の表演をした。私は扇をした。BGMに中国の音楽を使った。どうだっただろうか?

小川涼子

棒術もやっています!

青木正美

表町のさんかく岡山で毎週水曜日18時から開催している太極拳講習会を紹介します。

まずは、「五禽戯」で身体をほぐします。虎・鹿・熊・猿・鳥の動きを真似たユニークな気功体操です。

そして前半は、簡化24式太極拳。中国の朝の公園でよく見かける太極拳です。基本的なチェック事項をみんなで確認しています。後半は、「棍の型」。太極拳のようにゆったり、やさしい棒術です。モップの柄くらいの棒を扱う



ので、ソーシャルディスタンスもとれて安心です。やさしい動きの中に武術の極意が隠れています。時代劇の主役の気分になったりもします。

4月からの第95期講習会も棒術「棍の型」が続けます。全くの初心者でも楽しくできますので、ぜひ一度、さんかく岡山の会議室をのぞいてみてください。見学はいつでも無料、大歓迎です。

京山公民館で毎月第2日曜日10:00~12:00に開催している、陳式簡化太極拳の特別講習会も興味のある方、お待ちしております。4月からも開催予定で参加費は500円です。



2021/03/07

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.oina.net/
メールアドレス
rizhongyouhaoiehuikayama@yahoo.co.jp



「三和の家」(その2)

青木康嘉

阪神電鉄の尼崎駅前に三和商店街がある。その商店街の中に2020年1月にオープンした「三和の家」がある。中国残留孤児やその家族、その2世などが利用する介護福祉施設である。

「三和の家」に通う2人の中国残留邦人を紹介したい。その1人、尼崎市に住む宮島満子さん(85歳)は前号で紹介した。

もう1人昌谷範茂(81歳)さんは、3月から週2回通っている。奥さんは中国人で昌谷桂子(74歳)である。範茂さんは、帰国して40年余り前になるが日本語はうまくない。「三和の家」に来て、一人でパズルをしたり、ベットで寝てばかりいる。桂子さんは日本語が流暢である。範茂さんは、2歳の時「旧満州」に来て、戦後の混乱で母親は範茂さんを中国人の養子に出した。桂子さんとは23歳の時結婚した。

日中国交回復後も中国にとどまるつもりだったが、日本へ行けば血友病だった長男により良い治療ができると聞いて37歳の時帰国した。6か月間日本語を勉強したが、挫折した。職場に人間関係に苦労した。中国へ「帰れ」と職場で

いじめられた。今でも桂子さんが頼りだ。だから、会社を退職して20年、どこへ行っても無口だ。介護施設に行つたがうまくなじめなかった。「三和の家」に来て、宮島満子さんから少しづつ日本語を教えてもらつて変化が現れた。満子さんと出会つて、「三和の家」で「北国の春」を歌えるようになった。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言後、「三和の家」の介護希望者は減つた。田山華栄さんは、日本政策金融公庫に融資を頼んだが、1〜3月期の収入の半分でなければ融資できないと断られた。国の支援制度もダメであつた。

クラウドファンディングで募金目標100万円のうち、84万円が実現した。さらに昨年8月に介護の多文化共生を考える「シンポジウム」を開催し、ケアマネや介護福祉士から支援をえて9月から5人紹介してもらつた。だが、15人前後の介護希望者がなければ経営は厳しいといわれる。

中国残留邦人の「高齢化と介護」問題は緊喫の問題である。日本人対象の介護施設では、言葉や文化の違いで「孤独化」する。中国残留邦人が日本で安心して老後が送れるには、こうした「三和の家」のような介護施設が日本各地に必要とされている。「三和の家、加油(がんばれ!)」

中国帰国者問題写真と資料展

今年も福祉援護課の協力のもと、岡山市役所ロビーで「中国帰国者問題」写真と資料展を開催します。2008年4月に第1回目を開催し、今年で13回目となります。(昨年は、コロナ禍で中止)

凍てつく大地に取り残され、苦難の人生を歩んできた残留日本人孤児及び残留婦人とその家族。祖国日本へ帰国が始まって約40年、いま彼らはどのように暮らしているのか。

今回は、「中国残留日本人孤児及び残留婦人」の歴史と「中国帰国者の介護問題」などの写真と資料を中心に展示します。

また中国残留邦人支援法が改正されて13年が経過した「いま」の中国帰国者の実情を伝えることが出来ればと思つて企画しました。皆様多数のご観覧をお願いいたします。

と き：4月16日(金)～20日(火)

じかん：4月16日(金) 10:00～17:00

17日(土)・18日(日)は休みです。

19日(月) 9:00～17:00

20日(火) 9:00～16:00

ところ：岡山市役所1階ロビー

【展示内容】

- 中国帰国者問題の歴史と現状
 - ①龍爪開拓団のあゆみ
 - ②深刻な中国帰国者の介護問題
 - ③中国帰国者の日本語教室の現状
 - ④中国帰国者との交流会
 - ⑤日中文化活動の取り組み



主催：日中友好協会岡山支部

連絡先：日中友好協会岡山支部事務局 小林軍治

TEL/FAX086-277-2470 携帯 090-8240-2001

資料(一)

中国帰国者との交流会

令和3年3月7日(日)

13:30～14:30

1 開会挨拶

福祉プラザさいでん館長 西森 美加
日中友好協会岡山支部事務局長 小林 軍治

2 大正琴

「川の流れのように」
「上を向いて歩こう」

3 太極拳演舞

日中友好協会岡山支部

4 日本語教室の発表

益田桜子 今岡愛子

5 日本舞踊

「武田節」
「お座敷小唄」

6 閉会挨拶

福祉プラザさいでん運営協議会フック会長
原富美子

次回の新聞送付作業は
3月31日(水)午後1時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方で
す。



犬飼 小林 真田 坪井